

初声小学校
本年度の重点に対する評価

令和2年度 重点1

本年度の重点	1	自分から取り組もうとする意識・態度の育成
目標（評価規準）		自分から＜自分を大切に、同じように、他の人も大切にする＞意識・態度の育成
重点に係る現状 設定理由		本校児童は、素直で、優しく、前向きな子が多い。また、協力的、協働的で、物事を一生懸命取り組むことができる。半面、やや自主性、積極性に欠ける部分もある。もっと自分に自信をもち、自分の考えを持てる等、自己肯定感、自己有用感を高め、自分を大切にする気持ちを育成することで、さらに人権を尊重した教育活動の展開を図りたいと考える。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・【豊かな心】「自分を大切に、同じように、他の人も大切にする子」が、育成されている。」という項目では95%以上の教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価しているので、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。 ・「何を学ぶか～友達との関わり～」、「何ができるようになるか～ものごとを多面的・多角的にとらえ、思いやりの心を持って行動できる～」という項目では、すべての教職員が肯定的回答をしている。 ・「何が身に付いたか～多様な価値観を認め、互いの良さをみつけようとしている～」という項目では90%以上の教職員が「そう思う」「ややそう思う」と評価している。重点を意識した授業が行われていると思われる。
各アンケート等の結果	・児童は「自分を大切に、同じように、他の人も大切にするようにしている。」という質問項目には、86%以上が、「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、自分の良さ、友達や周りの人の良さや多様性を認めようとする意識が高まっているのを感じる。 ・保護者アンケートは、おおむね良好である。「自分を大切に、同じように、他の人も大切にする」ということは、人間としての基本なので、授業や学級経営等いろいろな場面で、工夫した取組を進めて、さらに「豊かな心」を育成して欲しいという感想・意見を多くいただいた。また、「いじめ」については、未然防止・早期発見にさらに力を入れて欲しいという要望もいただいた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○新型コロナウイルス感染症の影響で、制限された生活や行事の中であったが、それだけに仲間と一緒に生活していくことを、大切にしていこうという気持ちを児童が持っているのを感じた。また、授業の中でも、前半は教師主導の一斉授業が中心だったので、後半の話し合い活動やかかわり合いが多い授業を楽しく感じ、多様な価値観、互いの良さを実感している姿も見られた。来年度は、通常の生活に戻る中で、さらに【豊かな心】の育成を目指していきたい。 ・人権教育を基盤とする、認め合い、一人ひとりの居場所がある温かな学級・学年・学校づくりを、日常の学級経営、行事の中で、全教職員が意識して進める。 ・児童が企画・運営する生活や行事のさらなる充実を図る。児童一人ひとりが、より温かい学級・学年・学校づくりを、自分たちで取り組めるよう支援する。 * 新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者の来校機会が大幅に減った1年間であったが、学校・学級通信により、例年より多く情報発信したことを、保護者は高く評価していた。来年度も積極的に情報発信を行うとともに、児童が保護者に学校での楽しい話を自分からしたくなるような、学校生活の実現を目指していきたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	以下の3点について具体的な方策、年間計画を策定し、授業・行事等の改善に取り組みたい。 ○教職員が、授業や行事をとおして、「自分を大切に、同じように、他の人も大切にする」という人権意識をさらに高めていくことを意識する。 ○児童が自分たちで、より「温かい学級・学年・学校づくり」を意識し、取り組めるよう支援する。 ○児童指導部中心に、いじめの未然防止・早期発見、多様性の認め合いについての取組・研修を行っていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	自分から取り組もうとする意識・態度の育成
目標（評価規準）	自分から心と体の健康を考え、がんばりぬこうとする＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、楽しく運動しているが、自らの体力を向上しようとして取り組む意識は高いとは言えない。また、何事にも取り組もうとはするが、最後までがんばりぬこうとする意志も、強いとは言えない。家庭と連携した基本的生活習慣の確立を基本に、運動でも学習でも、自分の目標を設定し、努力し続ける力の育成を図りたいと考える。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・【健やかな体】「心も体も健康で、がんばりぬく子が育成されている。」という項目では、すべての教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と評価しているので、重点を意識しての教育活動が行えていると思われる。 ・「何が身に付いたか～自分の学びの現状を把握し、課題解決のため、粘り強く取り組んでいる～」という項目では、90%の教職員が肯定的回答をしている。 ・「保護者や地域の人の声や考えを聞きながら連携・協力をしている。」という項目では、90%の教職員が肯定的回答をしている。家庭と連携した基本的生活習慣の確立をさらに進めいきたい。
各アンケート等の結果	・児童は、「学習や生活において、途中であきらめず、最後までがんばろうとしている。」という質問項目には、90%以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答しているので、「がんばりぬこうとする」意識が育っていると感じられる。 ・保護者アンケートは、おおむね良好である。ただ、ゲームやスマホ、タブレット動画の見すぎによる体への影響、新型コロナウイルス感染症の影響への心のケアについての心配する意見もいただいた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○新型コロナウイルス感染症による臨時休校等で、児童たちは運動ができない日々が続いたと思われる。また、家庭での生活のみになったため、基本的生活習慣が乱れた児童も多かったように感じる。ただ、逆に学校が始まった時のクラスの仲間と一緒に遊べる、運動できる喜びも大きかったようである。コロナ禍の中の「新しい生活様式」の確立、そして、【健やかな体】の育成を、家庭と連携しながら、来年度も進めていきたい。 ・連絡ノートやアンケート等を活用して保護者の声を聞きながら、家庭と連携して基本的生活習慣の確立を進める。 ・運動面だけでなく学習面でも、楽しむ態度を養うとともに、自分の目標を設定し、努力し続ける力の育成を目指す。 * 今年度は新型コロナウイルスの影響で、特に1年生で、4月初めの学校での基本的生活習慣の確立ができなかった。また、臨時休校の影響で、保護者のもとから離れると不安になってしまう児童も見られた。来年度は年度当初から目標の達成を目指した取組を行っていきたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	以下の3点について具体的な方策、年間計画を策定し、授業改善に取り組みたい。 ○「新しい生活様式」に則った学校の生活リズムを構築し、家庭と連携した基本的生活習慣の確立を目指す。 ○生活・学習・運動面において、まず自分の目標を設定し、その達成に向けて努力し続ける力を育成していく。 ○児童が楽しいと感じられるような授業、運動の取組を意識する。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	自分から取り組もうとする意識・態度の育成
目標（評価規準）	自分から主体的に考え、学び合い、解決しようとする＞意識・態度の育成	
重点に係る現状 設定理由	本校の児童は、自主性、積極性にやや欠け、「自分で考え、話し合い、発表する力」が弱いということが全教職員の一致した認識である。全教職員で考えた「初声小学校グランドデザイン」の中心となる資質・能力の育成の中の、「何を・どのように学び・何が身に付き・何ができるようになるか」を常に意識した授業を行うことで、目標の達成を図りたいと考える。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	・【資質・能力の育成】「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子が育成されている。」という項目では85%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と回答していたが、「あまり思わない」と回答した教職員も15%いた。 ・「何を学ぶか～基礎・基本、見方・考え方、学び方～」、「何ができるようになるか～自分から学び続けることができる。学んだことを自分の生活や考えに生かすことができる。～」という項目では、すべての教職員が肯定的回答をしている。 ・「どのように学ぶか～自分の考えを持ち、伝え合うことで、さらに自分の考えを深める～」、「何が身に付いたか～学ぶこと、学び合うことを楽しんでいる～」という項目では90%の教職員が、「そう思う」「ややそう思う」と回答している。
各アンケート等の結果	・児童は、学習についての質問項目についてほとんど肯定的回答をしているが、「友達の意見を聞きながら、自分の考えを深め、問題を解決していくことを楽しいと感じる。」、「授業中、友達と考えを交流して、自分の考えを深め、表現できている。」という質問項目では、「あまり思わない」「思わない」との回答が10%あった。 ・今年度、保護者のアンケートは記述式にしたため、多様な意見・要望があった。「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子の育成」については肯定的な意見が多かったが、具体的な方策として、「宿題の量が少ない」、「自主的な学習より基礎基本の習得のための宿題」の要望が多く見られた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○新型コロナウイルス感染症の影響で、前半は特に教師主導の一斉授業中心で、教職員で話し合い、目指した授業改善がなかなかできなかった。そのことが、教職員、児童ともにマイナスの回答として表れていたと思われる。ただ、後半の学習発表会等の児童の話し合いの中では、主体的な姿が十分に伺えた。来年度は、年度当初から「主体的に考え、学び合い、解決しようとする子の育成」を目指した授業を行っていきたい。 ・「何を学ぶのか（基礎基本、見方・考え方、学び方）」、「どのように学ぶのか（めあてを明確に、心が動く課題の設定、伝え合いの活動の設定、振り返りを大切に）」を意識して、授業の展開を考える。 ・「何が身に付いたか（学び合うことを楽しんでいる、学びを自分ごととして捉えようとしている）」、「何ができるようになるか（自分から学び続けることができる、学んだことを自分の生活や考えに活かすことができる）」を意識した授業改善ができているか確認しながら、授業を行う。 ・学校だより、学級通信等で、上記のように授業を進める上で大切にしていることや、家庭学習の目的等について、積極的に情報発信を行う。 * 新型コロナウイルス感染症の影響で制限された生活の中で、児童は逆に自分たちで考える、考えなければならぬ機会が多かったように感じる。今年度、身に付いた力を、来年度は意図的に伸ばしていきたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施
最終改善方策	以下の3点について具体的な方策、年間計画を策定し、授業改善に取り組むたい。 ○「初声小学校グランドデザイン」示した目標・方法に沿った授業を行い、「主体的に考え、学び合い、解決しようとする」意識・態度の育成を図る。 ○日常生活、授業、そして、行事において、「自分から」という意識をさらに育てていく。 ○家庭学習について教職員の共通理解を図り、家庭と協力しながら、基礎基本の習得及び自主的な学習ができる意識・態度を育成する。